

研修報告書 No.16

研修先： 大月町国民健康保険大月病院

地域医療研修として高知県南西の大月町国民健康保険大附病院で2021年12月から2022年1月にかけて約4週間研修させていただきました。普段研修している都市部の病院とは、備わっている設備も求められる役割も大きく異なる病院での研修は何物にも替え難い経験であったため、こちらに報告させていただきます。

まず私が約4週間生活させていただき感じた大月町の魅力を報告いたします。大月町の最大の魅力は海にあると感じました。西南端には柏島があり、訪問診療で訪ねた際にはエメラルドグリーンの透き通る水面に甚く感動しました。特に夏期にはその透明度を求めて、全国からダイバーがこぞって柏島の海に潜り、賑わいを見せるとのことです。時には湾内にイルカの親子を見かけることもあるそうで、ダイビング未経験の私も次は夏に来訪できればと強く思いました。また海は観光にとどまらず、豊富な海産物を貴重な資源としてもたらししてくれます。私が中でも惹かれたのはマグロでした。太平洋を流れる黒潮により一年を通して成長に適した水温を保ちながら養殖される本マグロをこれほどに新鮮なタイミングで食せる機会はそうそうありません。道の駅でも柵を購入でき、上質な身質に舌鼓を打ちました。他にも新鮮な魚介類を飽きるほどに味わうことができ、楽しい4週間を過ごすことができました。

続いて医療に関してですが、高知県における高齢化率は33.6%であり、全国平均の27.3%と比較して高齢化が進んだ地域です。更に空港のある南国市やJRターミナル駅のある高知市と、私が研修させていただいた病院のある大月町では人口構成も大きく異なる様相を呈しているものと思われます。そのため、私が普段経験している都市部の医療とは求められるものが大きく異なりました。地域における住民の健康な生活の支持が大きなウェイトを占めていました。外来では糖尿病と高血圧といったコモンな生活習慣病を生活指導と内服調整によりコントロールし、訪問診療では自宅や施設での生活を確認しながらヘルスケアを行っていました。医学に限らない総合的な知識を必要とし、多職種と協力しながら医師が細やかな調整を取りまとめていました。医師は専門の診療科にとどまらず、幅広い内科的知識と多彩な手技で診療しており、地域において非常に貴重な存在であることを実感させられました。一方で、自身の知識不足と経験不足を強く痛感しました。普段は担当している患者さんに少しでも専門科的なプロブレムを生じると、すぐに他科コンサルトできる環境が良い意味でも悪い意味でも整っており、些細なことでもすぐに相談していました。今回の地域医療研修を通して、さらに勉学に励み、自身の診療の幅を広げなければならないなど実感しました。

また大月病院は地域の健康増進にも重要な役割を果たしていました。私は特定健診の結

果報告会に参加させていただきました。特定健診の結果に応じて簡潔な生活指導を行い、受診を必要とする病態が疑われる場合には受診を勧奨しており、元々は通院していない住民に対しても病院の方からアクセスするという予防医療を経験しました。糖尿病や高血圧といった生活習慣病は自覚症状が乏しく、放置していれば脳血管障害や心血管疾患を発症し、手遅れの状態になってから救急搬送されるという結果に至る可能性もあります。その中で医療機関や行政機関から積極的な介入をすることで病院へのアクセスを確保し、早期発見・早期介入につなげることができるという仕組みを身をもって経験することができました。

地域医療を通じて改めて包括的ケアの重要性、予防医療の重要性を再確認することができました。同時に自身の臨床能力の未熟さも痛感し、さらに勉学に励まなければならないと思いました。最後にはなりますが、大窪院長をはじめ、大月病院のスタッフの方々、高知医療再生機構の職員の方々には大変お世話になりました。この場をお借りして心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。